

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくとびあん

(EKUTEBIAN VOL.12 APRIL 1994 EKUTEBIAN)

4



まい あと ■ 油絵「大地」No.1 by 里川新太郎



昭和25年、立川駅南口で開店以来、華盛樓（錦町）を切り盛りしているのが寺内ハルさん。常連が慕う温かいまなざしの奥には、この道半世紀の年季が込められているようだ。自慢の料理は名物の餃子かと思ったら、「炸醬麵」。挽き肉を人参、竹の子、生姜と炒め、味噌で和える。特製スープと片栗粉でとろ味をつけたら、ゆでたての麺にかける。長年の相棒、丸太のまな板の上で千切りにした、きゅうりをのせて一丁上がり。そこで、いつもの一言が添えられる。「食べる前に、味噌と麺をよく混ぜてね」。わけを聞いたら、「夫婦といっしょで、仲良く一つになると味が出るのよ」。お客様を見て、細やかに味加減する真心が言葉になるのだろう、さらりと人生を語るハルさんだ。

撮影：井上義治

おしゃれ
“リッチ”の春
ブティック
リッチ

柴崎町店
立川市柴崎町2-3-10
TEL (0425) 28-2054
錦町店
立川市錦町1-3-25
TEL (0425) 29-2514

寺内ハルの炸醬麵





えくてびあんレポート
**BIRD
WATCHING**

双眼鏡を構えたい 気持ちがわかる

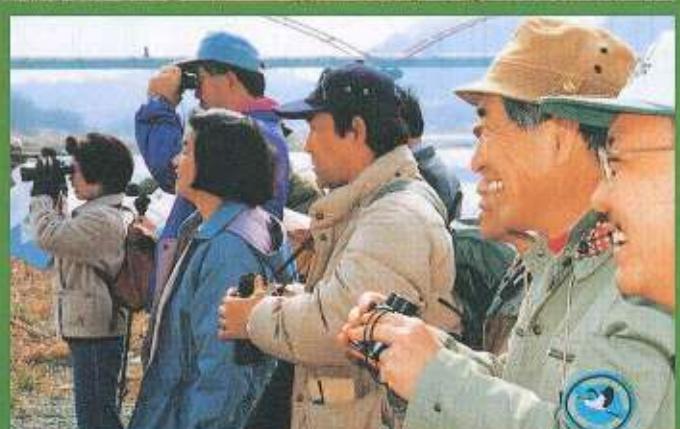
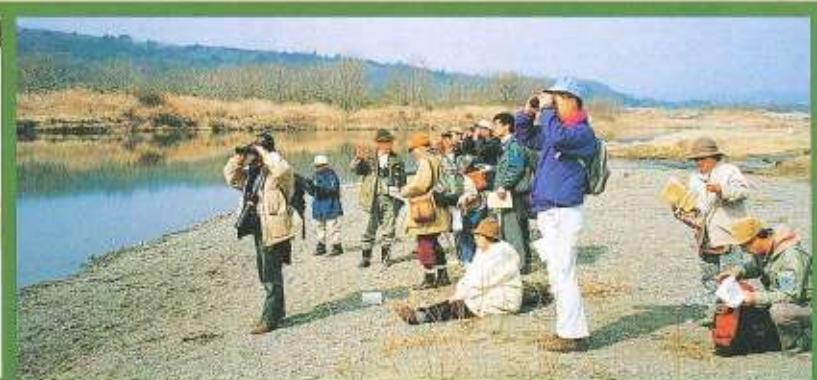
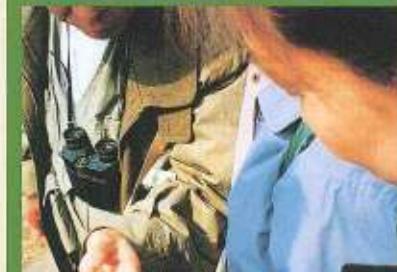
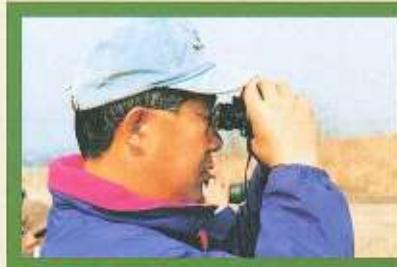
ハマシギたちの大群が右へ左へそろって飛ぶ姿は鮮やかだ。
習性というものの不思議なのか。一体、指揮している隊長は誰なんだろうか。
しばらくすると、ユリカモメたちが追いかけっこを始めた。
多摩川の水辺はそこいらの自然を満喫できるステージ。
休日を待ちかねて双眼鏡を肩からかける。



津戸英守氏

府立二中の少年時代から50年間、多摩川の野鳥を追いかけていた津戸英守さん（鎌町）は日本鳥類保護連盟の監事を務め、海外の野鳥保護団体との交流の代表としても活躍。本業は歯科医であるが、「どっちが本業かわからないよ」と語る。中央公民館主催の立川の野鳥観察講座のため、この日は日野橋と羽島橋へと繰り出した。

早春の一日、水面に浮かぶカモを見ながら食べるオニギリの味は最高である。日常の雑事を忘れ、自然の中で過ごす一日。何にも替えがたい喜びである。この日、立川の野鳥観察講座の全員は、双眼鏡を抱えポケットには観察ガイドを忍ばせ、足取りも軽く多摩川を歩く。「あ、いた／いた！」思わず親子で双眼鏡を取り合う姿も。





ところどころパンジーが咲いているが近所の寄付によるもの

栄町緑道のシンボルか、子どもの像があちこちに



墓地へ入っていた貨物線の跡地が公園になっている。緑路の上を小さな子どもが無邪気に走っていた。心地よい日差しに猫柳がふっくら顔を出していた。

心地

岡野和重の
AT PARKS....

心地よい風。木もれ日。子供たちの遊び声。今年は公園と話そう。
第4回 栄町緑道



ひと休みしましまうが

